

ごあいさつ

近年、少子高齢化や核家族化が進展し、地域コミュニティのつながりが希薄化する中、人々が安心して暮らせるよう、地域住民や行政、民間の社会福祉関係者が相互に協力し、複雑化・多様化する様々な福祉課題の解決に取り組むことの重要性が高まっております。

本市では、平成16年度に策定した「熊本市地域福祉計画」に基づき、地域福祉を支える関係地域団体の設立や、各種相談支援体制の充実など地域における基盤整備を進めるとともに、平成27年度からを実施期間とする第3次計画では、熊本市社会福祉協議会の「熊本市地域福祉活動計画」との一体的な策定を行い、地域福祉の充実を図ってまいりました。

この間、単身世帯の増加や社会経済の担い手の減少による地域活力の低下など社会構造の変化に伴い、個人や世帯が抱える課題が複雑化する中、これらの課題に対応するため、地域住民をはじめ行政や各関係機関が支え合い、一人ひとりが生きがいを持って、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向けて、今回の第4次計画を策定いたしました。

本市では、この計画に基づき、様々な主体がそれぞれの課題に対して分野横断的に連携し、複雑化した課題を「丸ごと」支援する包括的支援体制の充実を図るとともに、平成28年熊本地震の際にその重要性が改めて認識された、住民の主体的な支え合いをさらに育み、地域における課題を「我が事」として考える地域づくりを進めていきたいと考えております。

今後も、市民の皆様や地域団体、各関係機関と連携し、本計画の基本理念である「だれもが『おたがいさま』で支え合う協働のまちづくり」に取り組んでまいりますので、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたりご尽力を賜りました策定委員会の委員の方々、並びに、アンケート調査や住民座談会、地域説明会において貴重なご意見、ご協力をいただきました市民の皆様に心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

令和2年(2020年)3月

熊本市長 大西一史



ごあいさつ

近年、少子・高齢社会や核家族化などの進行により、地域住民同士のつながりが希薄化し、支え合いの機能が低下する一方で、福祉問題は複雑多様化しており、これまでの福祉制度だけでは、対応が困難な複合的な福祉課題、生活課題が顕在化しています。

本会は、これまで「熊本市地域福祉活動計画」を策定し、民生委員・児童委員や校区社会福祉協議会、自治会など、地域の皆様方と連携・協働を図りながら、地域福祉活動を推進するとともに、前回の第3次計画では、熊本市の計画である「熊本市地域福祉計画」と一体的に策定を行い、一層の連携強化を図ることで、「誰もが健やかで安心して暮らせる地域づくり」に向けた大きな一歩を踏み出すことができました。

しかしながら、地域では、地域福祉活動を推進する担い手の確保や住民主体の活動における参加者の減少、活動の固定化等が課題となっており、また、「地域共生社会」の実現に向けては、様々な福祉課題を包括的に受け止める相談体制の整備が求められるなど、これまで、生活困窮者自立支援制度をはじめとし、地域を基盤とした事業展開を行ってきた本会の役割は大変大きくなっています。

これらの課題の解決に向けて、第4次計画では、「だれもが「おたがいさま」で支え合う協働のまちづくり」の基本理念のもと、「地域力強化のための人材確保・育成」、「支え合いの地域づくり」、「多様な主体による協働、連携の推進」を、熊本市をはじめとした地域福祉に関わる全ての主体と連携して、総合的かつ計画的に進めてまいります。

そのなかでも、第4次計画の策定に際しては、地域福祉推進の中心的役割を担う校区社会福祉協議会にご協力いただき、活動計画である「校区社協行動計画」の策定を支援いたしました。これをさらに推進し、地域住民を主体とした課題解決力の強化に取り組んでまいります。

最後になりますが、本計画策定にあたり、ご協力いただきました関係者・市民の皆様方、特に行動計画を策定いただきました各校区社会福祉協議会の皆様には心から感謝申し上げます。

令和2年(2020年)3月

熊本市社会福祉協議会会長

潮谷 愛一

